

令和2年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

団 体 名	兵庫県立尼崎青少年創造劇場
施 設 名	兵庫県立尼崎青少年創造劇場
助成対象活動名	“「観る」「知る」「学ぶ」そして「繋がる」50年へ”行動計画
助 成 期 間	5 (年間)
内 定 額	49,261 (千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

（事業名）“「観る」「知る」「学ぶ」そして「繋がる」50年へ”行動計画

創造発信

ミッション
1

意欲的で質の高い舞台芸術の創造と鑑賞機会の提供

- ・ピッコロ劇団公演／ピッコロシアタープロデュース作品の創造と発信（新作企画、優れた作品の発掘と新演出、関西演劇人の力を結集）
- ・鑑賞劇場の継承、新企画への挑戦（いいむろなおきマイム＝アクセシビリティ公演）
- ・東北演劇人などとの交流
- ・室内楽サロン（共催事業）＝若手プロ演奏家と協働

アウトカム

- 地域において質の高い創造の場を確保・持続し、わが国の舞台芸術の水準向上に資する。【観点①④】
- 住民の鑑賞活動の拡大に資する。【観点③】
- 東京一極集中の中、地域におけるアーティスト活動の場を継続・提供し、人材流失防止と地域舞台芸術の活性化に資する。【観点②④】

交流連携

ミッション
2

青少年・子どもを育み、地域が息づくひろばとしての機能の発揮

- ・ピッコロ劇団ファミリー劇場／わくわくステージ（中学生向け）
- ・ピッコロ劇団おでかけステージ（小学生向け）
- ・シアタースタート（乳幼児向け）
- ・子どもと楽しむ落語会（ファミリー向け）
- ・子育て団体と連携したお話し会（幼児向け）

アウトカム

- 地域において質の高い創造の場を確保・持続し、わが国の舞台芸術の水準向上に資する。【観点①④】
- 住民の鑑賞活動の拡大に資する。【観点③】
- 経済的な支援が必要な子ども達に鑑賞機会を提供し、社会と子どもをつないでいく。鑑賞活動の拡大にも資する。【観点②③】

地域創生

ミッション
4

誰もがアクセスできる社会の実現に向けたコミュニティの創生

- ・障害をもつ人へアクセシビリティを向上（ピッコロ劇団公演での音声ガイド、字幕。文化セミナーでの字幕。マイム公演。他の文化施設との連絡会議など）
- ・乳幼児とその保護者を対象としたシアタースタート
- ・演劇鑑賞機会の少ない地域へのアウトリーチ公演（ピッコロ劇団おでかけステージ、ピッコロ劇団わくわくステージ、ピッコロ劇団県内市町ホール公演）
- ・地域でのワークショップ（あつまれ！ピッコロひろば等）

アウトカム

- 障害の有無や年齢、居住地域に関わらず、芸術体験・鑑賞ができる。【観点②③】
- 各地域や団体と連携し、地域のコミュニティづくりに取り組み、創造活動が持続する体制づくりに資する。【観点③④】
- 専門家などと連携し、地域が抱える社会的課題に取り組む、その効果を検証し、発展させる。【観点②④】
- 事業内容や検証内容を広く他館とも共有し、事業効果の波及に資する。【観点②④】

人材育成

ミッション
3

人材育成や芸術活動の裾野を広げていく拠点としての役割

- ・ピッコロ演劇学校/舞台技術学校（H30：開館40周年記念祭も開催）
- ・ピッコロ劇団員によるアウトリーチ指導（ワークショップなど）
- ・ピッコロフェスティバル
- ・ピッコロ実技教室（ちゃっと！狂言等）
- ・ピッコロシアター文化セミナー

アウトカム

- 地域において学び体験する場を確保・持続し、将来の演劇創造および地域コミュニティづくりに貢献する人材の育成に資する。【観点①②④】
- 市民の文化活動を支援することで文化の裾野を広げ、鑑賞者・活動者の拡大に資する。【観点③】
- 気軽に無料で一流アーティストの世界に触れることで、舞台芸術への関心が高まり、興味を拓き、鑑賞者の拡大に資する。【観点③】

（注）劇場・音楽堂等機能強化推進事業において求められる観点

【観点①】文化芸術領域における国際プレゼンスの向上 【観点②】地域における社会的課題解決に対する寄与

【観点③】鑑賞及び文化芸術活動を行う国民の拡大

【観点④】持続可能な創造活動の体制確保

(2) 令和2年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場		概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)		入場者・参加者数	
		実施日程	実施会場	概要	目標値	実績値	
1	兵庫県立ピッコロ劇団 第67回公演 「スカパンの悪だくみ」	2年5月22～24, 30, 31日 (中止)※	大ホール	新型コロナウイルス感染症の影響 で公演を中止した。	目標値	1,728	
					実績値	—※	
2	兵庫県立ピッコロ劇団 第68回公演 「ホクロのある左足」	2年10月2～4, 6, 7日	大ホール	作＝別役 実／演出＝岩松 了 出演＝ピッコロ劇団員 (別役メモリアル公演)	目標値	1,728	
					実績値	875※	
3	兵庫県立ピッコロ劇団 第69回公演／ピッコロシ アタープロデュース 「波の上のキネマ」	3年2月19～21日	県立芸術文化センター 阪急中ホール	原作＝増山 実「波の上のキネマ」 /脚本・演出＝岩崎正裕(劇団太陽 族) /出演＝ピッコロ劇団員 他	目標値	2,400	
					実績値	1,102※	
4	ピッコロ劇団ファミリー 劇場「とととといてよ！ シャーロック・ホームズ」	2年8月15, 16日 2年12月19, 20日	8月：東りいたみホール 12月：県立芸術文化セン ター阪急中ホール	作＝早船 聡(サスペンデッズ) 演出＝平井久美子(ピッコロ劇団員) 出演＝ピッコロ劇団員	目標値	3,312	
					実績値	1,270※	
5	ピッコロ劇団オフシアター Vol.36「もういちど、鴨 を撃ちに」	2年4月10～12日 (中止)※	中ホール	新型コロナウイルス感染症の影響 で公演を中止した。	目標値	400	
					実績値	—※	
6	ピッコロシアター鑑賞劇 場 方丈の海2021プロ ジェクト「方丈の海」	3年3月20～21日 (中止)※	大ホール	新型コロナウイルス感染症の影響 で公演を中止した。	目標値	200	
					実績値	—※	
7	ピッコロシアター鑑賞劇 場 シアタースタート 民族芸能アンサンブル若 駒「はるなつあきふゆ あ そぼあそぼ」	3年3月12日	中ホール	構成・演出＝つげくわえ／出演＝ 民族芸能アンサンブル若駒	目標値	200	
					実績値	111※	
8	ピッコロ演劇学校	2年9月～3年3月	大・中・小ホール	本科、研究科 半年間の講義・実習、成果発表会 (講師：ピッコロ劇団員ほか)	目標値	60	
					実績値	38※	
9	ピッコロ舞台技術学校	2年9月～3年3月	大・中・小ホール	半年間の講義・実習、成果発表会 (講師：舞台美術専門家ほか)	目標値	30	
					実績値	15※	
10	体感！ピッコロシアター	2年11月29日 (中止)※	大・中・小ホール	新型コロナウイルス感染症の影響 で事業を中止した。	目標値	300	
					実績値	—※	
11	あつまれ！ピッコロひろ ば	2年 6月9, 23日、7月3日、 10月8, 19日	養父市立建屋小学校 NPOやんちゃんこ	ピッコロ劇団員による上演指導、 演劇ワークショップ	目標値	500	
					実績値	256※	

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
12	おでかけステージ 「学校ウサギをつかまえる」	2年10月15,16,22日	原作＝岡田淳/台本＝眞山直則(ピッコロ劇団員)/演出＝吉村祐樹(ピッコロ劇団員)/出演＝ピッコロ劇団員	目標値	5～6小学校
		大ホール 上郡町立高田小学校		実績値	2小学校 ※
13	中学生のための演劇鑑賞 体験事業ピッコロわくわく ステージ 5月期「スカパンの悪だくみ」、 11月期「とつとつといてよ！ シャーロック・ホームズ」	5月期：2年5月23日～ 6月2日(中止)※ 11月期：2年11月25日 ～12月2日	5月期：新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。 11月期：事業番号4に同じ	目標値	5,500
		大ホール		実績値	5月期-※ 11月期 1,602※
14	ピッコロシアター文化セミナー<97><98>	<97>2年6月13日 (中止)※ <98>3年1月14日	<97>新型コロナウイルス感染症の影響で事業を中止した。 <98>出演＝三林京子(俳優)	目標値	632
		<98>大ホール		実績値	<97> -※ <98> 125※
15	ピッコロシアター鑑賞劇場 ピッコロ寄席「子どもと楽しむ落語会」	3年3月28日 (助成対象から除外)	年度末での開催となり年度内に収支の確定が困難であることから、 交付申請前に取り下げた。	目標値	366
		大ホール		実績値	-
16	ピッコロシアター実技教室 「ちゃっと！狂言」	2年5月5,6,9,10日 (中止)	講師との日程調整がつかなかったため、 交付申請前に取り下げた。	目標値	35
		中ホール		実績値	-

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。

4つのミッションに基づき事業を展開。令和2年度は、兵庫県域の新型コロナ緊急事態宣言に基づく臨時休館(R2.4.8~5.31)及び劇場本館の改修工事に伴う休館(R2.7.1~8.31)の約4カ月の休館となったが、コロナ禍での制約を受けながら、本来の姿での劇場事業の維持に最大限努めた。三密の回避をはじめとした感染防止対策の徹底を図るとともに、いずれの事業とも観客数・事業参加者数を半数以下に抑えて実施。県立ピッコロ劇団公演にあたっては、劇団員及び関係スタッフに対して事前にPCR検査を実施するなど万全の体制で臨んだ。

1 意欲的で質の高い舞台芸術の創造と鑑賞機会の提供【創造発信】

(1) 兵庫県立ピッコロ劇団公演事業

ア コロナ禍による影響 ※ () 内：上演ステージ数

事業数	本公演	プロデュース公演	ファミリー劇場	オシアター	わくわくステージ	おでかけステージ
当初予定	2(12)	1(5)	1(5)	1(5)	30 中学校(19)	5 小学校(5)
中止	△1(6)	—	—	△1(5)	△14 中学校(9)	△3 小学校(1)
実績	1(6)	1(5)	1(5)	0(0)	16 中学校(10)	2 小学校(4)

イ 改修工事の期間中、夏休期ファミリー劇場は伊丹市立文化会館(東りいたみホール)で上演。おでかけステージ及びわくわくステージは学校側及び市町教育委員会との調整・交渉を続け、上記の上演を実現。

(2) ピッコロシアター鑑賞劇場

当助成の対象事業であった東北演劇人との交流による公演(東日本大震災を機に毎年尼崎での地域交流企画として上演)については、「方丈の海 2021 プロジェクト」事務局からの申し出により中止となった。

2 青少年・子どもを育み、地域が息づくひろばとしての機能の発揮【交流連携】

シアタースタート(乳幼児・家族)111人、あつまれ!ピッコロひろば(小学生)256人、おでかけステージ(小学生)2校743人、わくわくステージ(中学生)1,602人など、世代毎に特色ある鑑賞体験事業を実施。企業や県(阪神南県民センター)とも連携し、経済支援が必要な家庭や子ども食堂を利用する子どもたちをファミリー劇場へ招待する(223人)等、経済環境に関わりなく演劇の楽しさを体験できる機会を提供。

3 人材育成や芸術活動の裾野を広げていく拠点としての役割【人材育成】

(1) ピッコロ演劇学校・舞台技術学校

演劇学校(本科・研究科)及び舞台技術学校は、コロナ禍により4月からの1年間の通年講義等を断念。

9月からの半年間の短縮カリキュラムによる体験プログラムとしての実施に変更。※()内：修了者数

区分	演劇学校・本科	演劇学校・研究科	演劇学校 計	舞台技術学校
当初の定員(通年実施)	40	20	60	30
実績(約半年間に短縮)	22(19)	16(12)	38(31)	15(14)

半年間の体験プログラムでは、定員を抑制、演劇・舞台技術の基本や楽しさを重点的に伝えることで、参加者の演劇への興味や学習意欲が深まり、継続学習に繋がるよう動機付けに重きを置いて実施。

(2) あつまれ!ピッコロひろば

コロナ禍により2か所での実施に留まり、毎年指導を行ってきたワークショップの多くが中止となった。

4 誰もがアクセスできる社会の実現に向けたコミュニティの創生【地域創生】

ピッコロ劇団ファミリー劇場やピッコロわくわくステージでの視覚障害者のための音声ガイド付き上演や、プロデュース公演での聴覚障害者のための字幕付き公演など、障害者への鑑賞サポートを継続実施。

→令和3年3月に改訂された「兵庫県芸術文化振興ビジョン」においても、誰もが芸術文化に親しめる多様な“場”の育成・拡大が必要として、鑑賞サポートの重要性が盛り込まれた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

1 文化的意義

第68回公演『ホクロのある左足』は、ピッコロ劇団の前代表：別役実氏がピッコロ劇団に1998年に書き下ろし上演した作品(第9回公演：演出 藤原新平(文学座))で、現劇団代表：岩松了の新演出により22年ぶりに再演。2020年3月に別役氏が逝去され、メモリアル公演となった。多くの劇評においても、関西・尼崎色のある演出など、高評価を得た。

第69回公演ピッコロシアタープロデュース『波の上のキネマ』は、地元尼崎の小さな映画館をめぐる波乱の小説『波の上のキネマ』(増山実氏(集英社))を岩崎正裕氏(劇団太陽族)の脚本監修・演出により上演。地域にゆかりの舞台化により、地元の方々の観劇を掘り起こすことができた。舞台芸術の創造に歩みを継続。

2 社会的意義

乳幼児・家族～幼児・小学生～中学生～高校生・大学生・大人～ファミリーと、乳幼児から大人まで幅広い世代に対してバラエティに富んだ事業を提供。演劇学校・舞台技術学校は、週2回・夜間開講で、社会人や学生でも無理なく通え、日本を代表する演劇人や舞台技術者による特別講義など、定評がある。これまで約2,700名の卒業生を輩出、地域文化活動のリーダーやプロの技術者として活躍しているOB,OGも多い。舞台芸術の普及・人材育成に歩みを継続。

ピッコロ劇団ファミリー劇場やピッコロわくわくステージでの視覚障害者のための音声ガイド付き上演や、プロデュース公演での聴覚障害者のための字幕付き公演は、県内での鑑賞体験機会の拡大に先導的な役割を担っている。

3 経済的意義

舞台芸術の創造発信やその鑑賞機会においても首都圏集中が進む中、劇団・学校を附設する劇場が地域(兵庫/尼崎)に存在することで、関西地域のニーズに密着した事業活動・運営を展開してきた。また、舞台製作に当たっても、兵庫県や関西で活躍する演出家・美術家などの作り手や俳優陣とともに創り上げることに配慮して、舞台事業関係者に兵庫県や関西での活躍の場を維持・提供し、地域の活性化につなげている。

(2) 有効性

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

地域における舞台芸術の振興を図る演劇を中心とする拠点施設として、令和2年度で42年目となる歴史のもとに培ってきた劇場・劇団・学校(演劇・舞台技術)の強みを活かしつつ、「地域が芸術でつながり誰もが生きやすい社会をつくる」を目指した事業を持続的に展開。令和2年度はコロナ禍にあって、一部の公演・事業については止むなく中止・延期した。令和2年度の実施状況は下表のとおり。

アウトカム	目標	指標	5年間の目標	令和2年度の実施状況	成果
(A) 地域において質の高い創造の場を確保・持続	安定的な劇団公演の継続 本公演2、プロデュース公演1、ファミリー劇場1、オフシアター1～2、おでかけステージ、わくわくステージ	ピッコロ劇団公演事業数の確保と充実	6～7事業/年の事業実施	5事業を実施(本公演1、プロデュース公演1、ファミリー劇場1、おでかけステージ1、わくわくステージ1)	公演の都度、劇団員・スタッフのPCR検査実施のほか、席数制限も行いつつ、感染対策に万全の体制で臨み、地域に演劇の魅力を提供
(B) 住民の鑑賞活動の拡大			95%以上の高水準の維持	満足度平均93.6%	
(C) 地域におけるアーティスト活動の場の提供による人材流失の防止と地域舞台芸術の活性化	演劇公演入場者数の増(劇団公演、鑑賞劇場)	公演事業の入場者数の増	15,000人/年	5,592人 (注)コロナ禍でピッコロ劇団公演の一部を中止・延期、席数制限により観客数は大幅減	コロナ禍で多くの公演が中止を余儀なくされる中、観客からは公演開催に感謝・満足の声が多くあがった
(D) 経済的な支援が必要な子ども達に企業助成等により鑑賞機会を提供、社会と子どもをつなぎ、鑑賞活動を拡大	助成企業の拡大	企業助成による鑑賞者数の増	400人/年	37人(日興油脂32、子ども若者応援クーポン5) (注)例年支援を得ている大阪ガスによる公演招待はコロナ禍で中止	コロナ禍にあっても当劇場の公演開催を支持いただいた企業の支援を得て、経済支援が必要な子ども達を招待できた
(E) 将来の演劇創造および地域コミュニティづくりに貢献する人材を育成	演劇学校、舞台技術学校の持続的な事業展開	定員を確保し、育成人材数を累増	5年間で卒業生計400人	演劇学校：本科19・研究科12・計31、舞台技術学校：14/合計45人 (注)コロナ禍で半年間の体験プログラムとして実施、参加者数も例年の半数に抑制	昨年度の体験プログラム参加者のうち演劇学校で22名、舞台技術学校で10名がより高度なスキル修得をめざして今年度入学
	教育機関と連携：おでかけステージ、わくわくステージ、ピッコロひろば、劇団員アウトリーチ指導、インターンシップ	連携する学校数等の増	40校/年との連携	わくわくステージ16校 おでかけステージ2校 劇団アウトリーチ22校 (注)インターンシップはコロナ禍で受け入れなし	コロナ禍で公演数は減ったが、地域の小・中学生や高校演劇部生徒に演劇の魅力を発信できた
(F) 市民の文化活動を支援することで裾野を広げ、鑑賞者・活動者を拡大	ピッコロフェスティバルの継続、室内楽サロンの継続、実技教室2の継続	施設能力のもと可能な限りピッコロフェスティバル参加団体数を維持など	95～100団体/年	室内楽サロン3回/実技教室1回 (注)ピッコロフェスティバルは改修工事で中止、室内楽サロン2回・実技教室2回：コロナ禍で中止	多くの事業が中止となったが、次年度に向けて各種団体と引き続き調整を行うなど地域とのネットワークを維持している
(G) 気軽に一流アーティストの世界に触れることで、舞台芸術への興味を拓き、鑑賞者を拡大	文化セミナー一年2回の継続	文化セミナー開催数、参加者数	2回/年、350人/回	1回125人(席数制限のもと実施) (注)6月開催予定分はコロナ禍で中止	開催したセミナーは早々に定員に達し芸能・舞台芸術への関心・ニーズの高さが伺えた
(H) 障害の有無や年齢など、居住地域に関わらない芸術体験・鑑賞機会の提供	アクセシビリティ向上への試行	バリアフリー事業実施数	2事業/年	3事業(公演) (ファミリー劇場及びわくわくステージ：字幕付き公演、本公演：音声ガイド)	音声ガイド付きや字幕付き公演は、劇団員を活用した当劇場ならではのもので、先進事例として注目された
(I) 地域におけるコミュニティ再生などの活動に取り組む体制づくりの促進	コミュニティ形成や社会的課題解決のためのワークショップ等を開催	あつまれ！ピッコロひろば(子ども向けワークショップ)等の開催	20～30回/年	あつまれ！ピッコロひろば6回 (注)ピッコロフェスティバル1：コロナ禍で中止	あつまれ！ピッコロひろばでの体験から、NPO法人が市民劇団活動を立ち上げ、劇団員が指導役として協力参加するなど地域活動を支援
(J) 事業内容や検証内容を広く他館とも共有し、事業の効果を波及	先導的事業について他館と内容・検証結果を共有する場の設定	アクセシビリティ向上、連絡会議の開催	H30以降も開催	東りいたみホール職員との合同バリアフリー研修会の実施	実地研修を通じて職員が鑑賞サポートの課題や改善点などを自覚する契機となった
(K) 専門家などと連携し、地域が抱える社会づくりに取り組み、効果を検証、発展	地域のコミュニティ創生貢献のための検討の場の設定	ワークショップ、情報交換会等の開催数	H30以降も開催	職員の鑑賞サポートの資質向上を図るため、専門家・ろう劇団代表と意見交換会を実施	鑑賞サポートに対して障害者側の受け止め方など率直な意見を得て、今後の対応に活かす機会となった

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。
 アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

- ◆ コロナ禍で一部の公演・事業について中止・延期となったが、次表のとおり、当館の特性（開館以来42年培った地域でのネットワークや人的資源等）を活かして、年間を通して、最大限、計画的かつ相乗的な効果が見込める事業運営に努めた。
- ◆ わくわくステージでは、ファミリー劇場の演目を活用することで、製作経費を押さえつつ、動きのある音楽劇の魅力を中学生に伝えられるようロングラン上演を可能にした。また、第69回本公演『波の上のキネマ』では、県（阪神南県民センター）と連携して、上演に先立ち、原作者や演出家、尼崎市内の映画館関係者、キャストのピッコロ劇団員によるトークイベントを開催。機運を高め、地元からの集客に繋がった。
- ◆ 演劇学校・舞台技術学校は、半年間の体験プログラムとなる中、インターネットによる開講前の予習動画配信や基礎知識の習得に重点を置いた新たなカリキュラム編成など、学習内容の質・量を落とさない取組に努めた。
- ◆ コロナ禍により定員半数の席数制限などのため収益率に達しなかった公演等も多かった。今後とも、公演・事業について来場者数確保への継続努力が必要である。「ポストコロナ」に向けて、動画配信などでのアピール、新たな客層の発掘など、ピッコロシアターファンの獲得を図る努力がさらに必要である。

事業番号	事業名	（実施期間）												予算(上段)/決算(下段)				
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	収入 A	支出 B	収益率 A/B		
5	ピッコロ劇団オフシアターVol.36「もういちど、鴨を撃ちに」	中止														1,412	1,952	72.3
																0	1,353	0.0
1	兵庫県立ピッコロ劇団第67回公演「スカパンの悪たくみ」	中止														4,536	9,947	45.6
																0	2,746	0.0
13①	中学生のための演劇鑑賞体験事業 ピッコロわくわくステージ 5月期 「スカパンの悪たくみ」	中止														0	5,627	—
																0	0	0
7	ピッコロシアター鑑賞劇場 シアタースタート 民族芸能アンサンブル若駒 「はるなつあきふゆ あそぼあそぼ」	延期														98	286	34.3
																52	274	19.0
14①	ピッコロシアター文化セミナー<97>	中止														0	438	—
																0	0	0
4①	ピッコロ劇団 ファミリー劇場(夏休期) 「とっとととしてよ! シャーロック・ホームズ」															4,662	23,972	—
																2,609	18,893	—
2	兵庫県立ピッコロ劇団第68回公演「ホクロのある左足」															4,536	15,117	30.0
																1,542	14,053	11.0
12	おでかけステージ 「学校ウサギをつかまえろ」															764	4,380	—
																763	2,840	—
13②	中学生のための演劇鑑賞体験事業 ピッコロわくわくステージ 11月期 「とっとととしてよ! シャーロック・ホームズ」															0	5,626	—
																0	7,146	—
10	体感!ピッコロシアター									中止						0	498	—
																0	0	0
4②	ピッコロ劇団 ファミリー劇場(冬休期) 「とっとととしてよ! シャーロック・ホームズ」															夏休期に合計額を記載		—
																0	438	—
14②	ピッコロシアター文化セミナー<98>															0	391	—
																0	0	0
3	兵庫県立ピッコロ劇団第69回公演 /ピッコロシアタープロデュース 「波の上のキネマ」															8,100	20,825	—
																3,007	19,564	—
8	ピッコロ演劇学校															6,946	9,002	77.2
																2,913	4,997	58.3
9	ピッコロ舞台技術学校															3,844	7,605	50.5
																885	5,375	16.5
11	あつまれ!ピッコロひろば															490	615	—
																440	370	—
6	方丈の海2021プロジェクト「方丈の海」													中止		0	383	—
																0	0	0

注) 1 予算については補助交付申請時の額/決算については実績報告時の額(単位:千円、%)
 2 収益率で「—」になっているものは、無料公演等で収入を見込まない公演・事業

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

1 ピッコロ劇団公演

(1) 第68回公演「ホクロのある左足」

・ 別役実（前ピッコロ劇団代表）氏が1998年にピッコロ劇団に書き下ろした作品を、22年ぶりに岩松現劇団代表の新演出での再演。若いピッコロ劇団員を多く起用し、劇団にとっての財産演目について、劇団内での継承を実践。【独創性】「別役実メモリアル」に参加。公演期間中、会場ホワイエに、劇場所蔵の別役氏色紙や劇団への書き下ろし11作品の初演時のチラシを展示し、氏を追悼した。【新規性】

(2) 第69回公演/ピッコロプロデュース「波の上のキネマ」

・ 地元尼崎市にゆかりの小説（集英社刊）の舞台化。地元書店と協力、これまで劇場に馴染みのなかった地域の方々へのアピールに努めた。また、兵庫県阪神南県民センターと連携して上演に先立ち「『波の上のキネマ』を語る！スペシャル座談会」を開催。原作：増山実氏、脚本・演出：岩崎正裕氏らによるトークイベントで公演の機運を高め、地域の小説ファン・映画ファンなどからの集客にもつながった。【新規性】
・ 5ステージ中2ステージで、鑑賞サポートとして聴覚障害対応のタブレット型字幕サービスを実施。モニターとして聴覚障害者の鑑賞のほか舞台関係者も協力し、ノウハウの共有、課題や改善点の洗い出しを実施。【先導性】

(3) ファミリー劇場「とっととといてよ！シャーロック・ホームズ」

・ 8月公演は、視覚障害者向けにピッコロ劇団員による音声ガイドを実施。受付には、舞台をイメージできるよう手で触れることのできる舞台の立体コピーを設置、作品の理解を事前に深める場を提供。【先導性】
・ 上演に先立ち、会場の東りいたみホールと当劇場の職員とで合同バリアフリー研修を開催。専門家を講師に知識習得・客席への誘導実習などを行った。【先導性】
・ 12月公演では、例年は終演後にキャストと子ども達がふれあう機会を設けてきたが、コロナ禍中であって、代わりに、カーテンコールでキャストと観客が一緒に楽しむクリスマスソングの振り付け用予習動画を予め配信、当日、上演後には会場が一体となって振り付けを楽しんだ。【独創性】

(4) 中学生向けに“わくわくステージ”

・ 兵庫県内の中学生を学校単位で招待し、ピッコロシアター大ホールでの本格的な演劇舞台の鑑賞体験を通して、演劇の面白さを実感してもらうとともに心の豊かさを育ててもらうことを目的にした事業として平成22年度にスタート。ピッコロ劇団本公演やファミリー劇場の演目を5-6月期及び11-12月期に上演。（2年度の5-6月期はコロナ禍で中止。）11月期には終演後、ピッコロ劇団員（演出・舞台監督）による舞台表現・舞台技術などの解説を行うことで、演劇への理解を深めてもらいやすくする従来からの取組も継続した。コロナ禍の影響を受けたが、1,602人が来場。【独創性】
・ 来場の聴覚特別支援学校生への鑑賞サポートとして、事前の台本配付や終演後のバックステージ解説に手話通訳をつけるなどの配慮を行った。また、盲学校生徒の鑑賞サポートとして、ピッコロ劇団員による音声ガイドを実施。物語のあらすじと出演者全員での配役の自己紹介を録音したCDを事前に送付した。【先導性】

2 全世代に向けた鑑賞劇場・公演のラインナップ構成

シアタースタートやファミリー劇場、小学生向け「おでかけステージ」や中学生向け「わくわくステージ」やなど、早い年齢から劇場に親しんでもらう企画を継続して展開。平成25年から続くシアタースタートは、乳幼児向けの良質な作品を創る実績のある表現者を招へい、子育て世代の保護者に子どもと一緒に劇場を楽しむ知育おでかけ場所を提供。【独創性】

3 ピッコロ演劇学校・舞台技術学校による人材育成

〔演劇学校・舞台技術学校共通〕

・ 昭和58年開設の演劇学校・平成4年開設の舞台技術学校はこれまでに2700名を超える卒業生を輩出。舞台関係や学校教育の分野への就職のほか、地域のコミュニティづくり等に貢献しているOB、OGも多い。【先導性】
・ 2年度は、コロナ禍により半年間の短縮カリキュラムとしたため、開講前から予習動画をネット配信を行うなど、参加者の学習意欲の向上につなげた。【新規性】

〔演劇学校〕

・ 三密回避のため劇場スペースを活用、役者同士の距離が十分とれるようアクティングエリアを最大限に設定。
・ 学習成果発表会では、授業時間の短縮による稽古不足や出演予定者の突発的な出席停止の可能性も見据え、代役や場面カットなど演出上でアレンジが利くよう台本を工夫するなど学習意欲の継続につなげた。【独創性】

〔舞台技術学校〕

・ 学習成果発表会では、例年とは異なり演劇学校との合同発表ではなく、美術・照明・音響の各コース独自の発表形式に変更、学習意欲の継続につなげた。【新規性】

4 アクセシビリティ向上への対応

・ 上記1に記載のとおり、ピッコロ劇団公演での音声ガイド付き上演、字幕付き上演などの鑑賞サポートを通じて障害者も楽しめる公演を提供。また、企業やNPOなどと連携し、経済的支援が必要な子どもたちなどに芸術鑑賞や体験機会を提供。【先導性】
・ 職員のアクセシビリティ向上への理解を深めるため、先導的な活動関係者等との鑑賞サポートの意見交換会を行い、障害者の目線からの受け止め方など、貴重な意見をいただいた。【先導性】

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

- 1 公演・事業の満足度は高く、アンケート結果はいずれも90%以上。
※ 満足度アンケートから「大変満足」「満足」の比率：劇団公演 93.6%
- 2 ピッコロ劇団公演などで得られた声・寄せられた感想など
 - ・ 第68回公演「ホクロのある左足」では、「別役作品・岩松新演出」の魅力を強力発信。別役実氏の書き下ろしを岩松劇団代表が演出、関西色をアピールした青春群像劇であり、また、氏のメモリアル公演としての注目度も高く、報道各紙から「台本には多く書かれていない若者達の内面が岩松氏の手で見事に表れた」（読売新聞10/19）、「別役戯曲を岩松了の新演出で継ぎ、別役戯曲の魅力を様々な形で社会に投げかける」（日本経済新聞10/23）など。劇評として「具象の空間造形の中で、中途半端な青春を送る若者たちの微妙な感情が、リアルに交錯する。（中略）台詞には表れない各人物の背景を、俳優たちが肉付けし、若者の不安や恐れが残酷に焙り出された。」（九鬼葉子『テアトロ』2020年12月号）など評価を受けた。
 - ・ 第69回公演/ピッコロプロデュース「波の上のキネマ」は、ピッコロ劇団×岩崎正裕（劇団太陽族）×関西俳優陣のタッグによる波乱と感動の小説の舞台化。劇評としては「困難に直面した現代人の心に訴えかける台詞と歌に満ちた作品。（略）希望を見失い、力尽きた時、亡くなった人が道を照らしてくれることもある。もう一度夢を見る力。新たに人と出会う力。それを信じたくなる劇だった。」（九鬼葉子、日本経済新聞夕刊3/5）など。また、鑑賞サポートとして、試行的にタブレットの配付による字幕付き公演を行った。聴覚障害者の方からは、「読みやすかった」「鑑賞の手助けになった」「舞台のイメージが伝わった」などの好感触の意見が得られた。一方、セリフと字幕とのタイミング、音の表現、画面の文字表現など、今後の課題も得られた。
 - ・ ファミリー劇場「とつととといてよ！シャーロック・ホームズ」は「早船聡（作）・平井久美子（演出・ピッコロ劇団員）コンビ」による2作目。鑑賞後アンケートでは、親子で演劇を楽しむ機会が減るコロナ禍での公演実施であったため、「観に来てよかった」「元気をもらった」といった声や、「大人の心にも響くストーリーで大変楽しめた」という感想が多数寄せられ、生の舞台の魅力をあらためて実感してもらえた機会となった。劇評としては、「動物達の友情を背景に、主人公の犬の少年の成長を描いた、子供達の共感を得るストーリー。次第に大人にとって心当たりのある、家族の長年の確執というテーマが浮かび上がる。（略）テンポの良い会話の中に、さりげなくメッセージが込められた、エネルギッシュな舞台。」（九鬼葉子『テアトロ』2020年11月号）など。
 - ・ 「ピッコロシアター文化セミナー」は、俳優：三林京子さんを迎えた。「私の女優人生」と題して、これまでの生きざまや落語家（桂すずめ）としての桂米朝との関わり、コロナ禍での生活などが明るく軽妙に語られ、観客からは、楽しく励まされたとの声も多く寄せられた。
 - ・ アクセシビリティの向上に関して、一部のピッコロ劇団公演ではあるが、視覚/聴覚に障害のある方への鑑賞サポート対応の継続を図ってきた。全国公立文化施設協会「劇場・音楽堂等アクセシビリティ・ガイドブック」（2020.3）において、アクセシビリティを積極的に行っている劇場の一つとしてピッコロシアターの取組事例が紹介された。“プロ劇団をもつ強みを生かして鑑賞サポート事業を実施”とされている。
- 3 ピッコロ劇団員の「第23回関西現代演劇俳優賞（2020年）」受賞
 - ・ 大賞：風太郎（平成16年入団）・・・「とつととといてよ！シャーロック・ホームズ」での視覚障害者のための音声ガイドや、ピッコロ劇団オンライン版紙芝居「おはなしBOX」の脚本・絵・朗読を通して、誰もが演劇を楽しめる環境づくりへの貢献が評価された。
 - ・ 奨励賞：田淵 詩乃（平成30年度入団）・・・「とつととといてよ！シャーロック・ホームズ」でのハドソン夫人役での慈愛をたたえた若い母親の演技が評価された。
- 4 「開かれた劇場」としての評価
 - ・ 「あつまれピッコロひろば」に寄せられた声など
但馬地域の建屋小学校（養父市）へは平成23年度からピッコロ劇団員（2名）を派遣、毎年の指導を続けてきた。「高学年になるにつれ、言葉の発し方や表現方法、振る舞いなどが上手くなっていることが実感できる」「今後とも継続して指導を希望する」などと好評。
 - ・ 「あつまれ！ピッコロひろば」から「やんちゃんこ劇団」へ
ひろば事業を体験したNPO法人「やんちゃんこ」（尼崎市）から、地元の希望者を募って劇団（小学生から70歳代まで）を立ち上げたいと申し出があり、令和2年度からは劇団員が指導などに協力。令和2年12月にピッコロシアター中ホールでの上演活動：旗揚げ公演“やんちゃんこ祭”に至った。
- 5 ピッコロ演劇学校・舞台技術学校卒業生について
プロとして活躍している者、教育現場や企業の中で活かしている者、地域の文化活動に携わっている者、個人で技術を生かして劇団等を主宰している者など、学校で得られた経験や技術を生かした様々な分野での活動例があり、卒業後のキャリア形成のベースに役立っている。
（これまでの卒業生：演劇学校1,880名、舞台技術学校775名、計2,655名）

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する(と認められる)か。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

- 1 兵庫県からの指定管理受託者として、これまでに蓄積してきた歴史のもと、施設や事業運営の特色を發揮しつつ、県と連携して安定した運営基盤(財源)の確保を図り、兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)事業運営方針に基づき、地域特性やニーズへの対応を前進させている。なお、令和3年度からの3年間の指定管理も引続き受託。
- 2 劇場運営委員会・ピッコロ劇団企画運営委員会などでの専門家や地域団体等からの意見や助言を得て、本報告中「1. 事業概要(1) 事業計画の概要」に記載したミッションに沿う創作公演・人材育成・普及啓発事業など、兵庫県芸術文化振興ビジョンの実現“芸術文化立県ひょうご”に向けた歩みを継続している。
- 3 組織体制としては、正規職員数を維持(41.7%)するとともに、定年退職者の再雇用や劇場勤務・劇団所属経験のある嘱託員の任用、協会内の芸術文化センターなど他施設との人事交流等を図りながら、専門能力の高い職員の確保に努めている。また、職員を各種研修(兵庫県職員研修など)へ積極的に参加させるほか、関係機関との連携事業への参加・協力等を通じて職員のスキルアップを図っている。
- 4 ピッコロサポートクラブは、ピッコロ劇団/劇場の活動を地域で支援しようと、平成8年に尼崎商工会議所等が中心となって設立された後援会組織で、現在の会員数(R3.3)は個人305人・法人28団体での構成。年間を通じて公演招待・割引・優先予約等の特典を用意するほか、劇団員との交流会や稽古見学会、機関誌「into」の発行等を通じて、創造の現場を身近に体感できる機会を提供、地域の応援団として定着している。
- 5 令和元年度から2年度にかけて実施した本館の大規模改修工事では、国交付金(地方創生拠点整備事業交付金)を活用して、舞台美術製作を行う美術工房や開架式の図書閲覧・交流スペースの設置などにより、利用者の利便性向上を図りつつ、大ホール内に障害者等対応エレベーターを新設するなど、館内のアクセシビリティ向上を図る整備を行っており、今後の効果が期待される。
- 6 外部組織との連携
 - (1) 教育機関(県市町教育委員会など)や行政機関
 - ・小学校: 演劇体験WS(あつまれ!ピッコロひろば)、劇団公演鑑賞体験(おでかけステージ)
 - ・中学校: 劇団公演鑑賞体験(わくわくステージ)、職業体験(トライやる・ウィーク)
 - ・高校・大学: インターンシップ、見学、演劇指導やWS
 - ・行政機関: 職員研修WS
 - (2) 劇場・音楽堂等間のネットワーク: 阪神公立文化施設協議会(幹事館: 兵庫県芸術文化センター)
 - (3) 兵庫県、尼崎市、地元関係団体、地元企業等(普及啓発、子どもたちの劇場招待など)
 - (4) 日本劇団協議会、兵庫県劇団協議会への参加: 日本劇団協議会による県内公共団体での外国人対象WS(やってみようプロジェクト)やファシリテーター育成WSについてピッコロ劇団が協力
 - (5) 日本芸能実演家団体協議会(芸団協)や日本演出家協会(関西地域でのシンポジウムやWS協力)
 - (6) 早稲田大学演劇博物館(特別展“別役実のつくりかた”への色紙出展協力)

(参考1) ピッコロシアター事業運営方針

① 上質な演劇を創造し発信します	専属のプロ劇団を持つ演劇の拠点劇場として優れた舞台作品の創造・発信/ファミリー劇場や学校公演など子ども・青少年向けの作品製作・発信/関西の演劇人材を結集したプロデュース作品の制作、関西の演劇創造の活性化 など
② 感動を共有できる“人と場”を育てます	ピッコロ演劇学校・舞台技術学校による地域の芸術文化活動を支える人材の育成/参加型のフェスティバルや実技教室、文化セミナーなど舞台芸術の創造と交流の場の拡大 など
③ 演劇の力を活用して地域づくりを進めます	舞台芸術を通して、高齢者・障害者・子育て世代など多様な方々の地域コミュニティへの参加の促進/表現力やコミュニケーション力を育むワークショップの実施や教育現場での演劇の活用など地域の未来を担う人材育成に貢献 など
④ 幅広い参画と協働のもとに取り組むを進めます	舞台芸術を支える多くの方々の参画のもと、行政・自治体、地域文化団体、大学等の教育機関、他の文化施設などとの協働を推進/阪神・淡路大震災時の経験をふまえ、東北との連携をはじめとした広域的な交流を促進 など

(参考2)

委員会名	設立目的	委員数 (R3.3現在)
劇場運営委員会	劇場・劇団全体の円滑な運営を図るための審議、調査研究	21名 舞台関係者(演劇、アマチュア・青少年、古典、ミュージカル、オペラ・音楽、舞台美術)9名、地元関係者(大学、コープこうべ、NPO、尼崎市、県)6名、マスコミ(NHK、神戸新聞)2名、県・財団3名、公募1名
劇団企画運営委員会	劇団公演や普及啓発事業など具体的事业についての企画検討	11名 劇団代表、演出家、劇作家、大学副学長、新聞社編集委員、演劇ジャーナリスト、財団、県
劇団能力評価委員会	ピッコロ劇団員の資質・能力を評価	6名 劇団代表、大学講師(舞台芸術関係)、演劇評論家、劇作家、演出家、新聞社編集委員

(参考3) 兵庫県芸術文化振興ビジョン及び兵庫県芸術文化協会の経営方針等

兵庫県芸術文化振興ビジョン(R3.3改定)	基本目標を「芸術文化立県ひょうご」～芸術文化で人や地域を元気にし、未来を開く社会の実現～に設定。そして基本方向を(1)芸術文化を創造・発信する(2)芸術文化の“場”を育て広げる(3)文化力を高め、地域づくりに活かす(4)みんなで支え、総合的に取り組む、(5)ポストコロナ社会への対応、と定める。
兵庫県芸術文化協会の経営方針等	経営理念・経営方針を“芸術文化の創造と交流、普及啓発及び学習機会の提供など多様な芸術文化活動を展開することにより、芸術文化の振興を図り、県民文化の向上に寄与するとともに、こころ豊かな人づくりに資する”と定めて事業運営を継続。